HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」42号
Issue Date	1976-11-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66741
Type	journal
File Information	yuin42.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学附属図書館報

楡蔭

The Hokkaido University Library Bulletin　No. 42　Nov. 1976

上野の参考課

和田謹吾

図書館が小説の中に描かれるということはあまりないのではあるまいか。その数少ない一つとして，私は夏目漱石の『三四郎』の図書館の場面が好きである。あれは三四郎が初めて東大の図書館に入った時の描写だが，私が初めて帝国図書館に足を踏み入れた時のことがまざまざと思い出される。東京での中学生時代であった。暗い半地下の受付口を通って階上に出ると，天井の高い，ガッシリした木組みの目録室があった。そこに，長い足のついた木製のカード・ボックスが四方の壁面と中央に何列か，ギッシリ並んでいた。私はまずその建物の構造に威圧感を受け，次にその無数の引き出しの中のどこに私の目的とするカードがあるのかに途方に暮れた。やっとそれらしき引き出しにたどりつき，カードを繰って見ると，こんどは何枚でも同じような書名が続いていて，どれを借り出したらよいのか，判断のしようがなかった。めくら滅法にカードに書き出して貸出口へ持って行くと，そこは本が出て来るのを待つ人で一杯であった。カードを出してから本が出て来るまでに優に30分以上待たされた。やっと名前を呼ばれて本を受け取って見ると，書名で期待していた本は貸出中で，渡された本は見当違いであった。止むを得ずそれを持って閲覧室に行くと，幾つもある広大な閲覧室は，空席を探さなければならぬほどに一杯であった。学生も街のおじさん風の人も，借り出した本を一心に読み耽って，室内は森閑としていた。私は席につくまでに疲れ，役に立たぬ借出し本を引っくり返しながら，この人々はどうやって意に合った本をあのようにうまく借り出して読書に没頭できるのだろうと，不思議に思った。時間ばかりかかって，結局見たい本の見られぬところというのが，私の帝国図書館に対する第一印象であった。

戦後に，研究者としてどうしても上野で調べるより仕方のないテーマにぶつかって札幌から上京した時，私は指導教授からの紹介状をもらって行った。参考課長の神田秀夫氏宛のものであった。私はその時まで参考課という名前も，それがなにをするところかも知らなかった。神田さんは私を課員の朝倉治彦さんに引き合わせた。私が朝倉さんに調査の目的を告げると，氏はことば少なに2，3の質問をした後，私に参考課内の閲覧席を指定して，ひとり書庫へ消えた。やがて私の席に運び出された数々の書物は，実に適切に私の目的を叶えてくれた。自分でカードをめくっていたら，いつめぐり合えるかわからないような書物であった。私は驚嘆した。あとから考えて見ればそれは当然のことで，神田さんも朝倉さんも大変な学識者で，やがては大学教授となったり，数々の水準の高い専門事典の編纂者になったりしておられる方々で

ある。当時はそういうことを知らなかった駈け出しの研究者として，私は上野の参考課というところは摩訶不思議なおそろしいところだと思った記憶がある。

私の，上野の参考課通いはそれから10十年ほども続いたろうか。年に一度，1週間か10日の出張をこの参考課の閲覧席に過ごすことがどれほど楽しく，待ち遠しかったことだろう。大学図書館の参考業務はまた別な困難を伴うかと思うが，そこを充実させてさらに若い研究者たちの力になれる日を期待したい。

◆会　議

第80回 図書館委員会

<と き　昭和51年9月27日(月)>
<ところ　附属図書館会議室>

1. 閲覧個室(第1・2種)選考について
2. 報告事項
3. その他

第48回 教養分館委員会

<と き　昭和51年7月23日(金)>
<ところ　教養分館長室>

1. 昭和51年度「教官指定学生専門図書」の選定について
2. その他

第49回 教養分館委員会

<と き　昭和51年9月29日(水)>
<ところ　教養分館長室>

1. 昭和51年度「参考図書」の選定について
2. 昭和51年度教官閲覧室後期ゼミ使用申込(案)について
3. その他

全学図書(担当)掛長連絡会議

<と き　昭和51年9月28日(火)>
<ところ　附属図書館会議室>

1. 1977年度外国雑誌購入について
2. 報告事項
3. その他

第26回 北海道地区大学図書館協議会総会

<と き　昭和51年10月1日(金)>
<ところ　酪農学園大学>

各館界の動向を含む報告，および前回の総会で決められた二つのワーキング・グループ(1. 学術雑誌総合目録，1977年版北海道地区版作成に関するワーキング・グループ，2. バック・ナンバー等の文献入手情報交換に関するワーキング・グループ)の報告のあと，協議に入った。

協議事項：1) 国立国会図書館所蔵和雑誌目録をデータ・ベースとした全国雑誌作成に関して，関係機関に要望を行う件について，2) 学術雑誌総合目録(人文科学欧文編)の早期発刊について，3) 北海道図書館関係職員録の作成について。協議の結果，1),2)については，諸般の事情もあり，当分静観することとし，3)については，次年度から作成することとした。なお，前総会からワーキング・グループを作って検討してきた。B/N等の文献入手情報の交換は，フォーマットも決定し，今後，各加盟館が情報を相互に流すこととした。次回(第

27回) 総会は，札幌大学で行うこととし，次回 (第20回) 研究集会は北海道大学と決定。
新常任幹事館　北海道大学　　幹事館　札幌医科大学，札幌大学，北海学園大学，北海道教育大学，北星大学 (順不同)　　監査館　小樽商科大学，藤女子大学 (順不同)

第50次　国立七大学附属図書館協議会

<と　き　　昭和51年9月22日 (水)>
<当番館　　名　古　屋　大　学>

標記協議会は，文部省より前田情報図書館課長補佐，沙藤専門員の出席を得て，国立七大学の館長，事務部長，課長出席のもとに開催された。提出協議課題は次のとおり。

1. 新しし学術情報要求と中央図書館の対応について (京大)　2. 地域社会における大学図書館の利用・サービスについて (京大)　3. 第4次定員削減について (阪大，九大)　4. 特別図書購入費の継続配付について (九大)
5. 外国雑誌収集特別予算措置について (九大)　6. 相互協力担当要員の確保について

承合事項

時間外開館 (夜間及び土曜日午後) について，開館時間，職員の配置，手当などの実情について

◆ 学内だより

北大百年資料，写真展示会報告

北大創基百周年記念行事の一環として北大沿革資料，写真展示会を第1会場としてクラーク会館大集会室において開かれた。

展示内容は主に札幌農学校時代を中心とした。

開催期間中の入場者数は約5,000名 (別表参照) にのぼり，この中には本学卒業生や旧職員など本学に縁の深い人も多く，当時を懐かしむ光景も見られた。

また，特に9月15日 (祭日) には百周年記念日とあって一般市民等も多数会場を訪れた。

続いて10月5日から2日間水産学部で展示会を行った。短い展示会であったがピーアールも良く (10月1日付け道新函館版掲載) 入場者は約440名，開催期間中には学内で日本陸水学会，学生の移行式などもかさなり訪れる人が多く，北大沿革資料等を熱心に観覧していた。特に学生等は内村鑑三など第2期生の成績表，演武場 (現時計台) の設計図，札幌農学校新入生の学力を物語る学業履歴書やクラーク，ペンハロー，ブルックス，カッター，ピーボデイなどの農学校初期のアメリカ人教師たちの講義の受講ノートに関心をもつ者が多かった。

また，第3回目は10月13日から10月15日まで (3日間) 学生を対象に (9月14～9月18日までの展示会は学生等が試験と重なったため) 開かれた。入場者は約360名であった。ここでも学生達は北大百年のあゆみを数多くの写真で目の当りに見，古き先輩の偉業に感じ入っていた。また，この期間中も一般市民も多数観覧し中には農学校卒業生の有島武郎のお孫さん，また同じく農学校卒業生の志賀重昂のお孫さんなど本州からわざわざこの展示会を観覧にこられ，祖父の学業等に感動されていたのが印象的であった。

展　示　物

資料関係 (ケース　19)

札幌農学校文献
クラーク博士関係文献
受講ノートと卒業論文
本学の歴史を語る文献
創立25年，50年関係資料

本学出身者の伝記等

サマチューセッツ大学からの寄贈物

1. 文 書 箱（クラーク家墓地のそばで育った楡の木で作製したもの）
2. クラーク，ホイラー関係書簡（多数）
（主に両博士が近親者，友人にあてた私信）　計221点

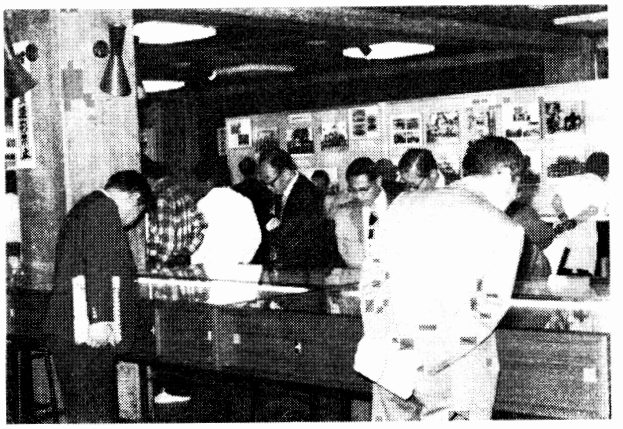
写真関係（パネル　8 枚）

札幌農学校時代

北海道帝国大学時代

北海道大学時代

マサチューセッツ大学から寄贈写真　計69点



第一会場クラーク会館展示場

入 場 者 統 計 表

第1回目　クラーク会館大集会室

昭和51年9月14日～9月18日（5日間）　9時30分～16時まで

時 / 日	午　前	午　後	計	備　考
9月14日	291	435	726	雨
15日	906	1,123	2,029	晴
16日	402	458	860	晴
17日	290	281	571	曇
18日	357	427	784	曇
計	2,246名	2,724名	4,970名	

第2回目　水産学部製図室

昭和51年10月4日～10月5日（2日間）　10時～16時まで

時 / 日	午　前	午　後	計	備　考
10月4日	107	105	212	雨
5日	138	86	224	晴
計	245名	191名	436名	

第3回目　クラーク会館大集会室

昭和51年10月13日～10月15日（3日間）　9時30分～16時まで

時 / 日	午前	午後	計	備考
10月13日	65	72	137	晴
14日	60	64	124	晴
15日	52	44	96	雨
計	177名	180名	357名	

（閲覧課）

「英国二次資料展示会」の開催

標記の展示会が，去る10月20日より10月26日までの1週間，本館3階資料展示室で開催された。これらの資料は，文部省学術国際局情報図書館課を通じ，英国大使館情報部より提供され，その後国内数大学で順次展示されているものである。今般は，英国における自然科学，農学，工学分野の主要な文献情報機関39団体が刊行する抄録誌，索引誌，レビュー誌等129種を展示した。この種の展示は，本館職員にとっても，英国における文献情報活動の組織化の一端に触れる機会を得たのは非常に有益であった。

◆研　修

昭和51年度大学図書館職員長期研修に参加して

平　田　忠　夫

標記の研修会は，昭和44年度より文部省と図書館短期大学の主催で実施されており，今年度も，8月9日から9月3日までの約4週間にわたって，図書館短期大学を主会場として開催された。

本研修の目的は，大学図書館が利用者の要求に即応した，図書資料及び情報提供体制を整備する必要があり，その一環として，図書館業務の合理化，機械化によるサービス向上と，情報提供等のサービスの質的改善を図り，それに応じる知識及び技術を，図書館職員に習得させるためのものである。

受講者は，国立大学30名，国立高専1名，公立大学1名，私立大学5名，計37名の図書館職員が受講した。

研修は講義（理論・演習），見学，共同研究討議から成り，内容は，例年と大差はないようであるが，主要科目である，(1) 大学図書館管理運営論　(2) 大学図書館業務のシステム化　(3) 大学図書館と情報サービスを中心に，その概要を紹介したい。

(1)　大学図書館管理運営論

“大学図書館の経営管理”，“図書館活動とその評価法”，“大学図書館行政”について論ぜられたが，要約すると，情報化時代における大学図書館がおかれている立場，その進むべき方向への分析，学術情報の処理体制化における大学図書館の役割，情報図書館課における施策と計画事項の説明についてが，各論における中心論点であった。

(2) 大学図書館業務のシステム化

"コンピュータによる情報サービス", "システムとしての大学図書館", "電子計算機の概要とその利用法" 等が，このテーマである。近年の学術情報量の急激な増加，あるいは新しい学術領域の出現を見るなど，ますます複雑化し，これに伴う情報量の増大に対する利用者のニーズもまた増大し多様化してきており，この現象に対処するには，コンピューターの導入が，不可欠条件となっている。図書館業務を機械化するための必要な問題として現状を把握し，業務分析を充分に行ったうえで，フロー・チャートへと進むべきであること。米国や西独が cataloging 中心に発展してきた状況に比し，日本の場合，House-keeping (管理的業務) や貸出業務が先行している。機械化の理想的な姿は Network を作り，on-line で結ぶことであるが，我国の場合，図書館業務の電算化のためには，数値データより書誌的データ，即ち，漢字の入力が不可欠の条件であり，国立国会図書館や，JICST で漢テレによる入力を行っているとはいえ，技術面での漢字処理方式の開発，分ち書き規則の問題，経済面での Network のための有線回路の費用，人材養成等々，まだまだ根本的に解決すべき問題が山積している等，幅の広い講義であった。

又講義と平行して行われた実習及び見学は，図書館短大の HITAC 8210-24 KB，コンピューターを使用し，書誌索引の打ち出される過程，沖電気工業で簡単なプログラムを作成し，ŌKI-TAC-4500 を使い，ラインプリンターで打ち出されるところまでの実習を行い，実際に手動させて頂き，全く驚異の連続であった。

見学は，国立国会図書館をはじめ，東京工業大学，慶応医学情報センター，最新の設備を誇る，日本科学情報センター，電々公社などを見学させて頂き，感銘するところ大であった。

(3) 大学図書館と情報サービス

このテーマの前半は，講義に重点がおかれ，情報の世界的な動向，情報資料の増加とその対策，一次資料と二次資料の特性とその利用法など，各分野別の講師によって，講義・解説がなされた。

後半は，人文・社会科学系，理工学系，医学・生物学系の3グループに分かれ，二次資料の解説，実務演習が行われた。私は人文・社会科学系のグループに参加し，東大総合図書館参考室の資料を使用して，各人に与えられた参考質問の例題を，暑さ，時間の経過するのを忘れて，実習し得たことは，今後の実務に大いに参考になるであろうし，非常に有益であった。

以上，紙数の都合上，主要科目についてのみ簡単にその概略を紹介したに留まったが，詳細については，後日配付される，大学図書館職員長期研修要綱(I), (II)によって読まれたい。

最後に，共同研究討議等を通して，各大学の実情や，日常業務の問題点等について，意見の交換をしたり，青山会館での共同生活において，人的交流が出来たことは大変に有益であったし，今後の情報交換にも大いに役立つことであろう。 (附属図書館整理課整理掛長)

『昭和51年度図書館職員著作権実務講習会』に参加して

高 砂 慶

昭和51年7月27～29日，東京大学経済学部別館において，標記講習会が開催され，これに参加させていただきましたので簡単に報告いたします。第1日は，著作権法概論，第2日は概論，制度史，条約論並びに各論，第3日は，実務演習，という日程で行われました。テキス

トとしては「著作権講習会テキスト」(文化庁文化部著作権課，昭和51年3月，p. 63) と「著作権関係法令集」(文化庁，昭和51年3月，p. 212) が用いられましたが，これは，講習会前に受講生に送付されてありました。3日間の講習のうち，中心はやはり図書館における複製，すなわち法第31条でしたが，著作権法全般にわたり，かなり内容の豊富な講義，演習が行われました。

この講習会は，新法施行以後毎年開催されているとのことですが，科学技術，特に複写技術，機器の進展，普及の現状は，新法成立当時の状況に更に拍車がかかり，従って，新法で予測できなかった著作権問題が発生していることは事実です。多くの図書館では，一方で複写機器の普及を歓迎し，他方で，その業務量の増大に悩まされつつあります。複写要求は更に図書館を越え，私的複製がいたる所で可能になる事態を発生しつつあります。複写量が増えるということは，相対的に著作権者の経済的利益が侵されていることを意味します。

著作権法はいうまでもなく，著作者等の権利の保護が基本にあります。安易で経済的な複製はとかく著作権の無視に直結しかねません。著作者等の権利の保護という目に見えない大きな文化的政策・制度と図書館のいわばハデなサービス，複写サービスとの接点に私達図書館職員が置かれていることを，この講習会によって知り得たことが大きな収穫でした。

第19回北海道地区大学図書館職員研究集会に参加して

笹　川　郁　夫

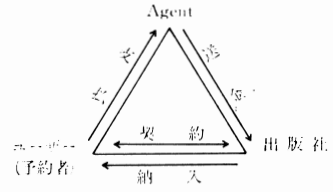
8月6日小樽商科大学を会場として開催された標記研究集会で「北海道大学に於ける外国雑誌一括購入事務と問題点」というテーマで発表する機会を得ましたので，以下その概略について誌面を借りてまとめて見ようと思います。

昭和51年度本学の外国雑誌購入点数は約5,000点，約1億4千万円となる。この内，前金払2,017点についての購入事務は附着図書館整理課学術情報資料掛で処理している。

外国雑誌の予約購入は本学では前金払と後金払とになっているが，ここでは前金払の一括購入事務について説明したいと思います。

外国雑誌の購入はすべて前金払が建前となっているため，Agent (予約取扱い業者) である書店の Subscription Catalog Price はそれをもとに算出されている。従って後金払で購入すると書店がユーザーに代って立替をすることとなり，当然のことながら金利等が考えられ高く購入することとなる。このためにも前金払により一括契約をして適正な価格で購入する必要がある。又窓口を一つにすることは各部局等の少ない人員で同じ様な契約業務を重複して行うことを避ける意味でも当然メリットがあると考えられる。外国雑誌は第一に予約による以外購入の方法はないのであるが，これは厳密な意味での予約制度ではない。

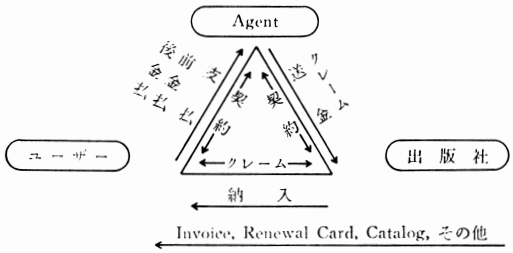
予約は，本来契約行為であるということであり，予約者であるユーザーと出版社との直接契約として成立するのが本来であろう。しかし現状ではユーザーと出版社との間に Agent が仲介して支払手続を行っている。このことを図で示すと次の様になる。



* この関係は昭和39年9月発行の洋書輸入協会の資料によるものである。

1. 予約本来の予約システム

現在の予約システムは次図に示す様に予約契約並びに支払等の手続を Agent が行っているのが通常であるが，出版社によって契約条項が異っているので事務手続上担当者は知っておかなければならない。



2. 現在の予約システム

以上のような特殊性を踏まえた上で，前金払として取扱う外国雑誌は次の目的と条件によって行なっている。

(目　　的)

1. 物品の効率的な供用及び予算の効率的執行を図ること。
2. 適正な価格統一を図ること。
3. 契約業務の一元化と省力化を図ること。

(条　　件)

1. 供給契約を締結しようとする年の1月から12月を単位として発行されるもの。
2. 月刊雑誌の内契約年の前年の7月から翌年の6月を単位として発行されるもの。

以上の目的と条件により一括購入前金払が行われているが，欠号補充等の問題点が残されている，さきに述べた如く外国雑誌は出版社から直接ユーザーに送本され，個々に納入検収が行われるため改善を要する点が多くあるがこれらは図書館と部局等が密接な連絡をとり解決しなければならないことだと考えます。　(附属図書館整理課学術情報資料掛)

◆ 1977 年度外国雑誌購入について

1977 年度外国雑誌の購入については，各部局より予約リストの提出を求め図書館学術情報資料掛において過去の実績等により前金払と後金払との振分け，複数部数を購入しているものの発注先の統一化等の調整を行った結果総点数 4,827 点，3,131 種類となり，その中前金払によるもの 3,202 点，1,820 種類について予約契約を行った。予約状況等は次の通り。

1977 年度外国雑誌一括購入前金払書店別（種類・点数）予約一覧

	種	点	円建 種	円建 点	合計 種	合計 点
丸善株式会社	746	1,322	10	17	756	1,339
紀伊国屋書店	560	981	10	20	570	1,001
国際書房	244	472			244	472
ナウカ書店	195	228			195	228
USACO	6	32	49	130	55	162
合計	1,751	3,035	69	167	1,820	3,202

外国雑誌一括購入前金払予約点数一覧表（書店別，部局別）

	丸善株式会社	紀伊国屋書店	国際書房	ナウカ書店	USACO	合計
大型計算機センター	1(1)	14	4		3(3)	22(4)
文学部	48	46	51	18		163
教育学部	32	23	8	22		85
法学部	19	37	22	9		87
スラブ研		6		34		40
経済学部	28	48	4	25	1(1)	106(1)
理学部	145(9)	154(4)	55	33	27(19)	414(32)
医学部	215	71(2)	52		19(16)	357(18)
医・病院	5	10	11		3(3)	29(3)
歯学部	61(1)	63	16		7(6)	147(7)
歯・病院			1			1
薬学部	31	22	9		15(13)	77(13)
工学部	212(5)	213(7)	129	40	25(18)	619(30)
農学部	230	92(1)	31	10	13(11)	376(12)
農場	3					3
演習林	12	5	3			20
獣医学部	74	33	4	2	11(11)	124(11)
水産学部	98	67	15	7	14(10)	201(10)
教養部	20	18	10	7	1(1)	56(1)
低温研	38	19(2)	7	11	5(3)	80(5)
応電研	30(1)	27(3)	17	2	7(6)	83(10)
触媒研	11	12(1)	5	4	6(4)	38(5)
免疫研	15	11	7		3(3)	36(3)
教養分館	6	4				10
附属図書館	5	6	11	4	2(2)	28(2)
合計	1,339(17)	1,001(20)	472	228	162(130)	3,202(167)

（ ）内は円建内数とする

外国雑誌一括購入前金払予約点数一覧表（書店別・国別）

	丸善株式会社		紀伊国屋書店		USACO		国際書房	ナウカ書店	合計	
		円建		円建		円建				円建
アメリカ	629	14	486		18	81	252	16	1,401	95
カナダ	28		15						43	
イギリス	288		221	20	7	49	105	2	623	69
オランダ	92		67				28	9	196	
フランス	19		17				9		45	
西ドイツ	167		115		7		56	13	358	
東ドイツ	31		16				2	4	53	
オーストリア	9	2	2				4		15	2
オーストラリア	3		6						9	
デンマーク	19		11				3	1	34	
イタリア	2						1		3	
スイス	18	1	16				9		43	1
スウェーデン	13		6				3		22	
ベルギー	1								1	
フィンランド	1								1	
インド			1						1	
ニュージーランド	1		1						2	
香港			1						1	
ソビエト								177	177	
チェコスロバキア								1	1	
ポーランド								3	3	
ルーマニア								1	1	
ノルウェー	1							1	2	
合計	1,322	17	981	20	32	130	472	228	3,035	167
総合計	1,339		1,001		162		472	228	3,202	

1977年 後金払い外国雑誌における在札四社（丸善・紀伊国屋・国際・ナウカ）及びユー・エス・エシアテック社以外の円建誌名一覧表

No.	雑誌名	代理店名	円価	購入部局
1	Abacus. (AUl)	日本書籍		経済学部
2	American Journal of Digestive Diseases. (A)	コンチネンタル Pub.	23,000	医学部
3	Biochemical Genetics. (A)	コンチネンタル Pub.	55,300	農学部・医学部 理学部・水産学部
4	Circulatory Schock. (A)	医学書院		医学部
5	Current Programs. (A) with Quaterly and Annual Index.	東京洋書		工学部
6	Czechoslovak Mathematical Journal. (CZE)	コンチネンタル Pub.	35,400	理学部
7	Digital Processes. (SWI)	イースタン・ブックサービス	30,600	工学部
8	Drugs. (SWI)	OTO	50,400	医学部・薬学部
9	Endocrinologia Experimentalis. (CZE)	極東書店		医学部
10	Functional Analysis and Its Applications. (A)	コンチネンタル Pub.	71,400	理学部・応電研
11	Geotechnique. (B)	イースタン・ブックサービス	25,200	工学部・農学部
12	Hand. (B)	南江堂		医学部
13	Harvard Business Review. (A)	インターコンチネンタルマーケッティング	15,000	経済学部
14	International Journal of Computer and Information Science. (B)	コンチネンタル Pub.	25,700	工学部
15	International Journal of Theoretical Physics. (B)	コンチネンタル Pub.	64,600	理学部
16	International Labour Office, All Publication. (SWI)	ILO ジャパン	70,800	経済学部
17	Journal of Crystal and Molecular Structure. (B)	コンチネンタル Pub.	28,800	理学部
18	Journal of Pediatric Ophthalmology. (A)	医学書院		医学部
19	Journal of Pharmacokinetics and Biopharmaceutics. (A)	コンチネンタル Pub.	26,000	薬学部
20	Journal of Statistical Physics. (A)	コンチネンタル Pub.	76,100	理学部・工学部
21	Journal of Soviet Mathematics. (A)	コンチネンタル Pub.	138,600	理学部
22	Mathematical Notes of the Academy of Science USSR. (A)	コンチネンタル Pub.	106,200	理学部
23	Neoplasma. (CZE)	極東書店		医学部
24	Oil and Gas Journal. (A)	インターコンチネンタルマーケッティング	13,200	工学部
25	Oxidation of Metals. (A)	コンチネンタル Pub.	40,400	工学部
26	Proceedings of the Institution of Civil Engineers. (B)	イースタン・ブックサービス	23,500	工学部
27	Product Engineering. (A)	インターコンチネンタルマーケッティング	18,000	工学部
28	Quintessence International. (G-W)	医学書院		歯学部
29	Siberian Mathematical Journal. (Eng. Transl.) (A)	コンチネンタル Pub.	129,300	理学部
30	Somatic Cell Genetics. (A)	コンチネンタル Pub.	26,000	理学部
31	Soviet Atomic Energy. (A)	コンチネンタル Pub.	110,800	工学部
32	Soviet Plant Physiology. (A)	コンチネンタル Pub.	126,800	低温研
33	Theoretical and Mathematical Physics. USSR. (A)	コンチネンタル Pub.	106,200	理学部
34	Journal of Low Temperature Physics. (A)	コンチネンタル Pub.		理学部・工学部
35	Journal of Solution Chemistry. (A)	コンチネンタル Pub.		理学部・応電研

北海道大学附属図書館報 「楡蔭」 (通巻42号)
1976年11月25日 発行 発行人 斉木一郎
編集委員 坂東 慧 (長)・横山梅雄・笹 哲夫・似鳥正吾・千葉哲夫・田中一郎
平田忠夫・坪田充弘・岡本憲吉・山本幾夫・高橋 裕
発行所 北海道大学附属図書館 札幌市北区北8条西5丁目 電話代表 711-2111 (2967)
印刷所 文栄堂印刷所 札幌市中央区北3条東7丁目 電話代表 231-5560-5561